Y.I.（英語英文学科・２年次生）

Ⅰ．留学レポート

① 留学を目指した理由

幼いころから洋画や洋楽に興味があり、留学に憧れを持っていました。高校生時代、コロナで行くことができずに後悔していたので、大学生になったら絶対に留学したいと思っていました。しかし英語力に自信がなかったため、AES コースに入り英語力を伸ばしてから留学に行こうと思いましたが、２回生の秋から就活も気になり半年ほど考えていたところ、ぴったりなプログラムを国際課の方に教えていただき申し込みました。また、留学を英語力向上にだけではなく、自分自身の成長にも繋げたいと考えていました。

② 留学決定から出発までの準備期間

実際に現地でも使えるフレーズを学びたいと考え、SNS で調べて勉強をしました。実際に留学中、役に立ったフレーズがたくさんあったので、勉強していてよかったと思います。また言語交換のアプリを用いて、実際にネイティブの人と話す練習もしていました。ビザの申請は他会社に依頼しました。面接は質問が３問くらいですぐに終わるとても簡単な質問でした。準備にはとても時間がかかりました。半年という長い期間で、季節も変わるため、何を持って行くべきかたくさん考えました。

③ 現地到着後

到着後、まず PIA の先生と合流して話しながら荷物を受け取りに行きました。受け取り後、車で迎えに来てくれたホストファミリーと合流して家まで帰りました。どんなホストファミリーなのか、これから半年間どんな生活になるのか、とてもドキドキでした。またホストファミリーは当然すべて英語で話していて、何を言われているのか全然わかりませんでした。でもゆっくり話してほしいとお願いするとわかりやすく話してくれて、お互いにたくさん質問しながら楽しく会話しました。その時点で良い人たちであるのが伝わり、ドキドキがワクワクに変わりました。

④ 語学研修機関

◆施設・環境・スタッフ

PIA の先生方はみんな優しくてとても良い人たちでした。授業内だけではなく授業後もたくさん話しました。何か不安なことや悩んでいることがあるかなど親身に話を聞いてくれて、アドバイスをしてくれました。PIA 主催のイベントがたくさんあり、クラスが違う人たちとも仲良くなる機会が多くあるのも良い点だと思います。また施設もきれいで、周りはとても自然が多い場所でした。また UP (University of Portland) という現地の大学の中にあるので、現地の学生と関わる機会が多かったのも良かったです。

◆授業内容、課題、試験

ペアワークがたくさんありました。それをきっかけにクラスのみんなと仲良くなれました。積極的に答えたり質問したりしやすい環境であるので、わからないことをすぐに聞き、解決することができました。

課題はほとんど毎日ありました。すぐに終わる日もあるけれど、プレゼンとライティングのエッセイの宿題が重なるなど時間がかかる日もありました。テストは 1 タームに 2 回、midterm exam と final　exam がありました。どちらも比較的簡単でしたが、その際に必ずリスニングとスピーキングの授業でプレゼンがあるので、それに最も追われました。

◆ サービスラーニング・コミュニティサービス（PIA のみ）

私は子どもたちが両親と一緒に遊びに来る施設のお手伝いをしていました。その子どもたちや両親が本やおもちゃ、そして服の寄付をしてくれるので、私たちがまず使えるものと使えないものに仕分けて、その後に他の子どもたちや両親が欲しいものを簡単に得ることができるように分類して片づけました。またその施設内でのパーティーの準備や計画、そして来る人達が少しでも楽しめるよう施設の装飾もしました。UP の生徒たちが多く働いていて、仲良くなることができ、今でも連絡を取っています。また子どもたちや両親たちとも毎回たくさん楽しく会話をすることができ、英語力の上達にも繋がりました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

毎週金曜日にコミュニティーサービスのボランティア活動をしていました。その他は特にボランティア活動をしておらず、クラブにも入っていませんでした。他の生徒の中には週 1 でバドミントンのクラブに参加している人がいました。そこでは UP の生徒たちとも関われるので、参加してみても良いかもしれません。PIA や UP のイベントにはたくさん参加していました。Conversation partner の子がたくさん連れて行ってくれて、その子の友達とも仲良くなることができました。

⑥ 現地での住まいについて

ホストファミリーはとても優しく良い人たちでした。また、学校からとても近い場所で家から学校の門までは徒歩 2 分くらいの場所でした。お昼の時間に家に帰れるくらい近かったです。もちろん私専用の部屋があり、お風呂もほとんど一人で使用していました。あまっている地下室も含めどこでもなんでも自由に使っていいよという家でした。本当に快適で不便なく、楽しく過ごすことができ、これ以上のホストファミリーはいないと思えるくらい良い、大好きな家族でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

12 月から 1 月の間に長期休みがありました。ずっとアメリカのディズニーに行きたいと思っていたので、友達と LA 旅行に行きました。その後、本校の留学生だった子がアメリカの東の方に住んでいたので、その子の家とニューヨークとワシントン D.C.に行きました。クリスマスやお正月はホストファミリーとその娘や孫の家族と一緒に温泉や海岸に旅行に行ってクリスマスなどをお祝いしました。PIA の生徒とも遊びに行きました。とても充実した長期休みでした。

II．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

毎日が本当に楽しくて選べないくらいです。その中でも特に楽しかったのはホストファミリーとその

娘や孫たちと一緒に行ったクルージングです。緑色の物を身につけなければならないというドレスコードがあり、その時のホストファザーの恰好はとてもおもしろく、おいしいごはんを食べながらたくさんお話をしたり、孫たちと一緒に遊んだりしました。そこで現地の中学生のお友達もできました。次の日がホストマザーのお誕生日だったのでみんなでお祝いしました。プレゼントを喜んでもらえてうれしかったです。みんなでダンスパーティーなどもしました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

冬に４０度を超える高熱が続いた時が一番しんどかったです。食欲もなく、のどが痛くて水分も取ることができずに動けないため、病院に行けないほどでした。また、その時に midterm exam もあったのでプレゼンの準備もしなければなりませんでした。さらに、もう少しで留学生活が終わる時期でもあったため、時間を無駄にしているような気分にもなりました。しかし、その時にホストファミリーが気にかけてくれ、回復してから学校に久しぶりに行くと先生も他の生徒も戻ってくるのを待っていたなど言ってくれて、改めて良い人たちに囲まれて生活していることに気づかされた機会にもなりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

カフェやレストランだけではなく、お店、バスや飛行機の中までも犬と一緒にいる人が多いことに驚きました。日本ではほとんどのお店で禁止されています。また飛行機の中にペットではないという紙を貼っている人がいました。また犬でも she や he とすべての人が呼んでいました。このことから動物をあたかも人のように考える人が多いのではないかと考えました。そのくらい動物愛にあふれているような気がします。私のホストマザーも娘の家に犬がいて、娘の仕事の日は毎日犬の世話をしていました。旅行にも一緒に行きました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 日本から持っていって、特に役に立ったもの

スリッパは持って行って良かったと思います。私の家は靴で入るのが当たり前で、ポートランドは特に雨の日が多いので部屋をきれいに保つためにも家ではスリッパを履いていました。たしかに現地でも売っているところはありますが、あまり見かけませんでした。他のものについてはお金さえあればなんでも手に入れることができるので、日本特有のものなどだけ持っていくべきなのではないかと思います。パソコンについては、私は持っていきました。月報をするときや授業内でのプレゼンの作成、そしてボランティアの授業の時に使う機会があったので持って行ってよかったです。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前は本学の授業すらも理解できず、アルバイトで外国人のお客様が来た時はすべて翻訳機で対応するくらい英語を話すことができず、話すことに躊躇していました。初日はホストファミリーとの会話のほとんどが理解できないほどでしたが帰国前は専門的な用語を除いてほとんど理解することができていました。また、帰国後、本学での授業を理解することができます。ホテルのフロントでのアルバイトを

始めましたが、外国人のお客様とも躊躇せずに話せるようになりました。実際に TOEIC の点数も伸びていたので英語力が向上したのではないかと考えます。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

楽しみな気持ちや不安な気持ち、いろいろあると思います。案外なんとかなるし、不安よりも楽しいことがたくさんあると思います。語学力の向上はもちろんのこと、自分自身の成長にも繋がる良い経験だと思います。たくさんの人と出会っていろいろなところに行き、全力で楽しんできてください。

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

本当は留学中に将来の夢を見つける予定でしたが、むしろ選択肢が広がったことで決められずにいます。そのことを不安に思い PIA の先生に相談したところ、たくさんのことに挑戦するべきと言われたので、これまで飲食店でのみアルバイトをしていたけれど今はホテルのフロントのアルバイトをはじめ、新しいことに挑戦しています。今後就活が始まるので、それまでにたくさんのことに挑戦し、自分に合う将来の夢や今後の進路を見つけられればいいなと願います。

Ⅴ．写真



これはクリスマスの日にホストファミリーとその娘や孫たちと旅行に行った時の写真です。たくさんのクリスマスプレゼントを開封している写真です。ホストファミリーには小学生の孫が 3 人いてみんな近くに住んでいたので、旅行や Thanksgiving Day やクリスマスなどの行事だけではなく普段からよく会っていました。みんなとてもかわいくてフレンドリーでとても仲良くなることができました。ホストファミリーと同じくらい孫たちもだいすきです。



これはカリフォルニアディズニーに行った時の写真です。留学に行く前から海外のディズニーに行きたいと思っていたので行けてよかったです。クリスマスシーズンで全部がキラキラしていて最高にかわいかったです。

M.I.（英語英文学科・２年次生）

Ⅰ．留学レポート

① 留学を目指した理由

幼い頃から英語を流暢に話すことに憧れを抱き、本学の表象文化学部英語英文学科に入学しました。しかし、日本での学習だけでは、実際に使える英語力を身につけるのは難しいと感じていました。そんな時、両親から「時間のある大学生のうちに留学した方がよい」と勧められ、私も留学を真剣に考えるようになりました。調べていくうちに、現地で実際に英語を使い、異文化に触れることで視野が広がると感じ、強く留学を希望するようになりました。

② 留学決定から出発までの準備期間

私は単語を覚えるのが苦手で語彙力に不安があったため、高校生のときに使っていた『英単語ターゲット』と『英熟語ターゲット』をもう一度開き、基礎から覚え直しました。ビザの申請は JACC 渡航センターを通して行い、面接のスケジュール調整などをサポートしていただきました。面接は 8 月 22 日 9 時 50 分から、大阪・淀屋橋にあるアメリカ領事館で行いました。領事館はセキュリティが厳重で、館内は混雑していました。面接は立ったままガラス越しに英語で簡単な質問を受ける、ドライブスルーのような形式で、すぐに終了しました。ビザは 8 月 31 日に郵送で受け取りました。

③ 現地到着後

空港ではホストファミリーと PIA の職員が私の名前の書かれた紙を持って出迎えをしてくれました。私のホームステイ先は空港から車で10分ほどのところでホストファミリーが車で連れて行ってくれました。現地について 3 日後からオリエンテーションとリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングのテストを受けました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

PIA は University of Portland（ポートランド大学）の教室を借りて授業を行っています。ポートランド大学は日本の私立大学のキャンパスに比べると大きくて、とても素敵でした。PIA のスタッフや先生は話しやすく優しい方たちばかりで、質問もしやすくとてもいい学習環境でした。ランチタイムと放課後には予約をすれば図書館で先生と一対一で指導が受けられるので時々利用していました。

◆ 授業内容、課題、試験

クラスは月曜日、水曜日がグラマーとリーディングで、火曜日、木曜日がライティングとリスニング、スピーキングでした。初めに受けたテストの結果に基づいてレベル１－５に分かれていました。成績が８０％以上だと次のタームでクラスが上がるシステムでした。初めは今までの学習の復習のようなもので簡単でしたが、グループで話し合うことも多く、学びになりました。テストは授業をしっかり受けていれば８割以上はとれるような内容でした。

◆ サービスラーニング・コミュニティサービス（PIA のみ）

私は 1 月から 3 月の毎週金曜日に、International School of Portland（ISP）というインターナショナルスクールの日本語コースで、小学 3 年生のクラスのアシスタントを務めました。クラスは男子 8 人、女子 4 人の計 12 人という少人数で構成されていました。私は教壇に立って授業をするのではなく、困っている子の席に行き、作文のサポートや算数の計算の仕方を教えるなど、アシスタントとして活動しました。休み時間や放課後には、一緒に外で遊んだり、絵を描いたりして生徒たちと交流を深めました。また、お遊戯会や遠足にも参加しました。ISP の職員の皆さんはとても親しみやすく優しい方ばかりで、生徒たちも元気いっぱいで、時には大変なこともありましたが、とても可愛らしく良い子たちでした。毎週金曜日に行くのがとても楽しみでした。ただし、日本語を教えるという環境だったため、英語の使用は禁止されており、実践的な英語を学ぶ機会はコミュニティサービスを通しては得られませんでした。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

PIA には同年代、同性の日本人の留学生が多くいました。留学中に日本語ばかり話す環境は良くないと思っていたので人間関係に悩まされました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 日本から持っていって、特に役に立ったもの

プレゼンテーションを行うことが多いのでパソコンは必須です。すぐに寒くなるので半袖はいらなかったです。冬でもプールに入ったので水着を持っていけばよかったなと思いました。ホストファミリーへの手土産は手ぬぐい、扇子、祖母が作ったちぎり絵などかさばらない日本っぽいものを持っていきました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前は英語を話すときに緊張してしまって上手く自分の気持ちを話せない時が多くありました。しかし留学を通して日本にいた時は考えもしなかったことに興味を持つようになりました。例えば世界の情勢についてです。留学中に大統領選挙があったり、ホストファミリーと政治の話をしたりすることが多かったので、日本の情勢のみならず、世界の情勢について興味を持ちました。毎日世界のニュースを見るようにしています。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

人生で 1 番濃くてあっという間の 6 カ月でした。少しでも悩むようなことがあったら、日本にいる家族

や友達と電話をすればいいと思います。

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私はこれまで、明確な将来の夢を持っていませんでした。しかし、留学を通してさまざまな国の人々と出会い、異なるバックグラウンドを持つ人々と関わることの楽しさに気づきました。将来は、国際的な環境で多くの人と関わることができるエアライン業界、特に客室乗務員として働きたいと考えています。また、留学中に参加したコミュニティサービスを通じて日本語を教えることにも関心を持つようになり、現在は副専攻として日本語日本文学科の授業も履修しています。卒業後は、国家資格である「登録日本語教員」の取得を目指しており、セカンドキャリアとして海外で日本語教師として働くことも視野に入れています。